Garoon 4.x
カスタムアプリ連携ガイド

第1.4版

サイボウズ株式会社

はじめに

本書は、次の製品を連携する場合に必要な設定や操作を説明しています。

- パッケージ版 Garoon
- パッケージ版 サイボウズ Officeの「カスタムアプリ」

対象読者

本書の対象読者は次のとおりです。

- システム管理者:
  各製品のシステム設定画面にアクセスでき、かつ、カスタムアプリとの連携を設定するユーザーです。

本書で使用している表記

本書では、次の表記を使用しています。

表記	意味
重要	特に重要な注意事項
注意	操作に注意が必要な事項や制限事項
補足	操作の補足説明や別の操作方法、知っていると便利な情報
[]	画面上のボタン、リンクまたはタブ
-###ページ	参照先のページ

本書の作成環境

本書の作成環境は、次のとおりです。

- OS: Windows Server 2012 Standard Edition
- Webブラウザー: Internet Explorer 11
- 製品バージョン:
  - Garoon バージョン 4.6.0
  - サイボウズ Office バージョン 10.8.0

本書で掲載している画面表示は、お使いのWebブラウザーによって異なります。

本書で使用している製品名称と略称

本書では、次の略称を使用しています。

略称	製品名
Garoon	Garoon バージョン 4.6.0 以降
サイボウズ Office	サイボウズ Office バージョン 10.8.0 以降
カスタムアプリ	サイボウズ Officeのカスタムアプリ
アプリ	カスタムアプリで作成した各データベース
レコード	アプリに登録したデータ

本書の取り扱いについて

この文書内における掲載情報の二次利用においては、ご自身の判断と責任の下に行ってください。

サイボウズ株式会社は、それらの情報をご利用になることにより発生したあらゆる商業的損害・損失を含め一切の直接的、間接的、特殊的、付随的または結果的損失、損害について責任を負いません。

また、本文書を二次利用し作成した文書には、次のような当社の著作権表示文を記載してください。

「本文書は、サイボウズ株式会社による『Garoon 4.x カスタムアプリ連携ガイド』を一部引用しています。」

商標について

- 記載された商品名、各製品名は各社の登録商標または商標です。また、当社製品には他社の著作物が含まれていることがあります。
  個別の商標・著作物に関する注記については、弊社のWebサイトを参照してください。
  https://cybozu.co.jp/logotypes/other-trademark/
- なお、本文および図表中では、(TM)マーク、(R)マークは明記していません。
- OpenSSL (Copyright (c) 1998-2001 The OpenSSL Project. All rights reserved.)
  This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit.
  (http://www.openssl.org/)
  This product includes cryptographic software written by Eric Young
  (eay@cryptsoft.com)
  This product includes software written by Tim Hudson
  (tjh@cryptsoft.com)

目 次

はじめに 2

目 次 4

1 章 カスタムアプリ連携とは？ 6

2 章 カスタムアプリ連携の作業の流れ 8

3 章 Step1：カスタムアプリ連携に必要な条件を確認する 9

3.1 カスタムアプリ連携が可能な環境の組み合わせ 9

4 章 Step2：サイボウズ Office 連携が使用可能かどうかを確認する 11

5 章 Step3：ユーザー情報の同期が必要かどうかを確認する 12

6 章 Step4-A：ユーザー情報を同期する場合 13

6.1 【1】ユーザー情報を同期する前に確認すること 13

6.1.1 同期に関する制限事項 13

6.1.2 初回の同期で注意すること 14

6.1.3 2 回目以降の同期で注意すること 14

6.1.4 Garoon とサイボウズ Office の情報が異なる状態で同期した場合の影響 15

6.2 【2】オープン統合認証 ver.2 を設定する 16

6.3 【3】サイボウズ Office 連携を有効にする 17

6.4 【4】ユーザー情報の自動同期を設定する 18

6.5 【5】ユーザー情報を手動で同期する 19

6.6 【6】同期後の動作確認をする 20

7 章 Step4-B：ユーザー情報を同期しない場合 22

7.1 【1】サイボウズ Office で、運用に必要な設定をする 22

7.2 【2】オープン統合認証 Ver.2 を設定する 22

8 章 Step5：連携するアプリを準備する 24

9 章 Step6：「ガルーンとの連携」を有効にする 26

10 章 Step7：カスタムアプリのポートレットを準備する 28

11 章 Step8：ポートレットをポータルに配置する 31

12 章 ユーザー情報を同期済みのデヂエを、サイボウズ Office にバージョンアップする場合 34

13 章 「ガルーンとの連携」の仕様 36
13.1 **連携を有効にしても変わらないこと** 36
13.2 **連携の有効/無効による挙動の違い** 36

14 章 カスタムアプリのポートレットについて 38
14.1 **「カスタムアプリ最新情報」ポートレットの記述例** 39
14.2 **「カスタムアプリ（レコード一覧）」ポートレットの記述例** 40
14.2.1 **使用可能なパラメーター** 41
14.3 **「カスタムアプリ（集計表示）」ポートレットの記述例** 43
14.3.1 **使用可能なパラメーター** 44

付録 A コマンドラインでユーザー情報を同期する 45
付録 A.1 Windows **の場合** 45
付録 A.2 Linux **の場合** 46

付録 B ログ 47
付録 B.1 **カスタムアプリ連携の設定に伴うログ** 47
付録 B.2 **アプリログ** 49

付録 Cエラーメッセージ 50
付録 C.1 Garoon **の画面に表示されるエラーメッセージ** 50
付録 C.2 **サイボウズ** Office **のポートレット内に表示されるエラーメッセージ** 51

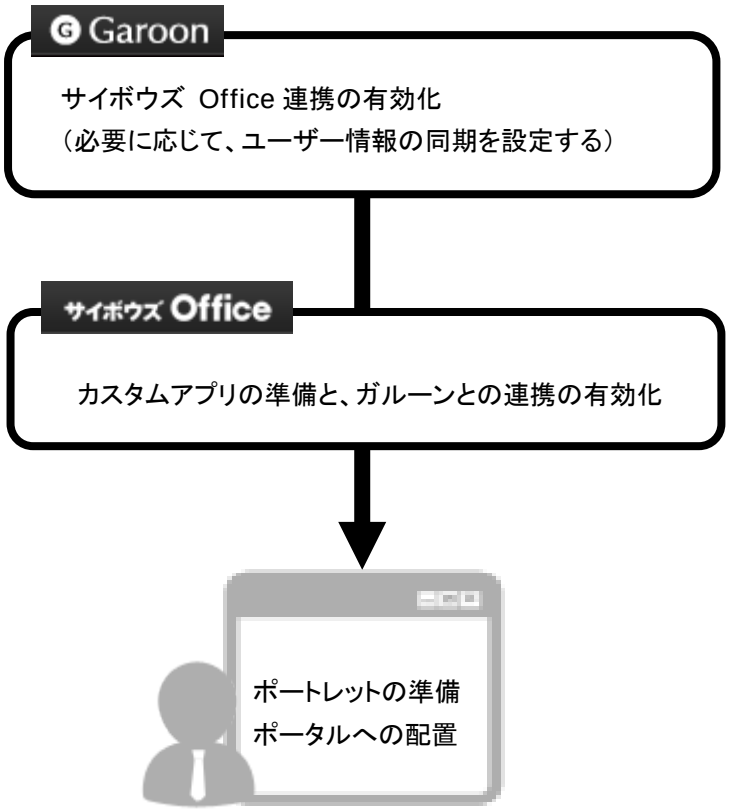
1章　カスタムアプリ連携とは？

カスタムアプリ連携は、Garoonとサイボウズ Officeの「カスタムアプリ」の連携を指します。
GaroonとサイボウズOfficeの両方がパッケージ版である場合にのみ利用できます。

カスタムアプリ連携の設定を完了するには、おおまかに3つの作業が必要です。

- Garoon側で、「サイボウズ Office連携」を有効にする
- サイボウズ Office側で、カスタムアプリを準備し、「ガルーンとの連携」を有効にする
- Garoon側で、カスタムアプリのポートレットを準備し、ポータルに配置する

カスタムアプリ連携の作業イメージ：



Garoonのポータルにカスタムアプリのポートレットを配置した例：

アプリの通知や、自分が担当するレコード件数を表示するポートレットです。

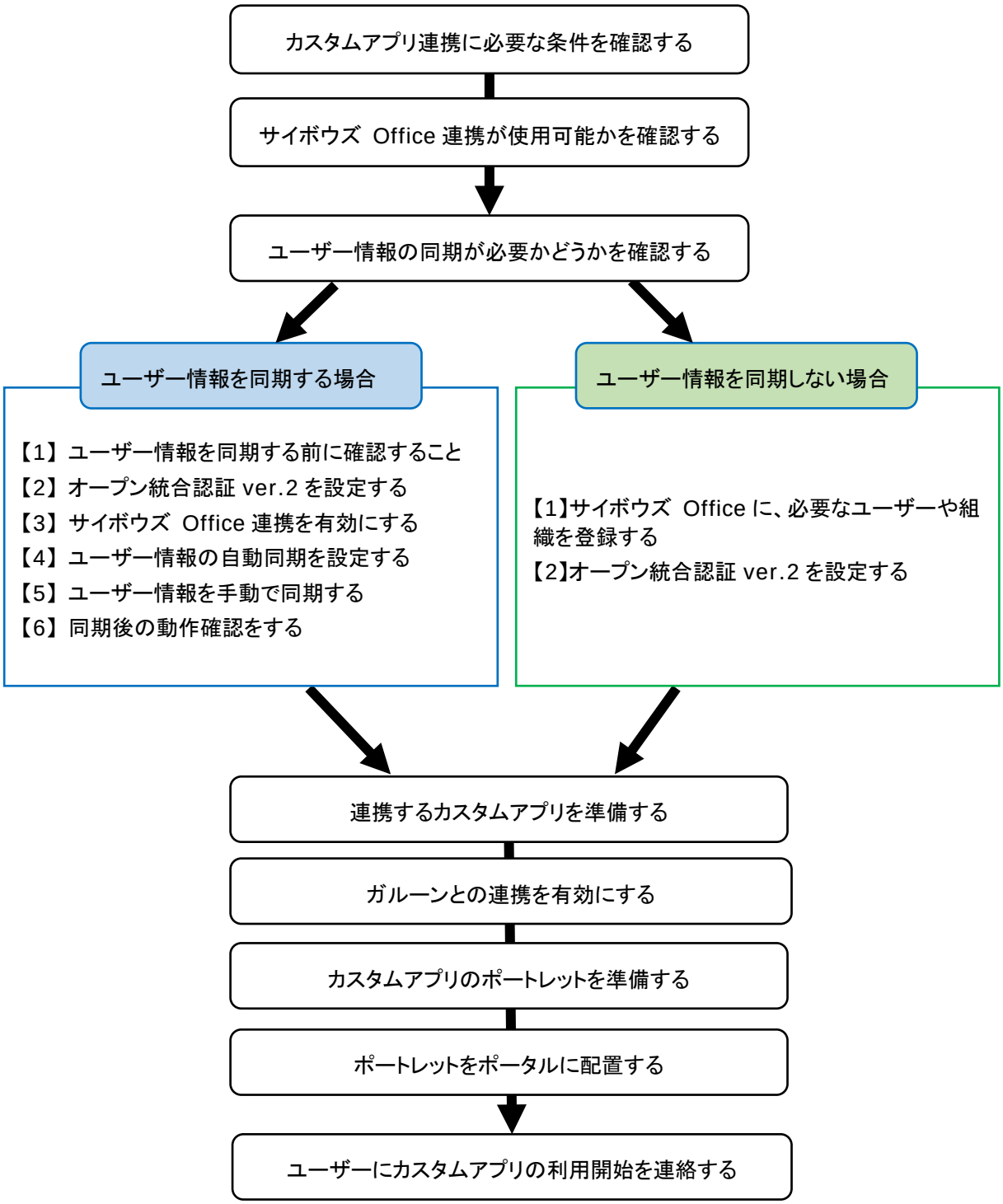
指定したアプリのレコード一覧を表示するポートレットです。

注意

- サイボウズ Officeは日本語のみに対応しています。
  このため、ユーザーの表示言語の設定にかかわらず、カスタムアプリの画面は日本語で表示されます。
- Garoonのタイムゾーンの設定は、カスタムアプリには適用されません。

2章　カスタムアプリ連携の作業の流れ

カスタムアプリ連携の作業は、ユーザー情報を同期するかどうかによって、手順数が異なります。



3章　Step1:カスタムアプリ連携に必要な条件を確認する

カスタムアプリ連携を設定するには、Garoonとサイボウズ Officeで、次のすべての条件を満たす必要があります。

条件		補足
両製品がパッケージ版である。		
Garoonが、バージョン4.6.0以降である。		Garoonは、Windows版とLinux版の両方とも、カスタムアプリ連携に対応しています。
サイボウズ OfficeがWindows版であり、かつ、バージョン 10.8.0以降である。		Linux版は、カスタムアプリ連携に対応していません。
サイボウズ Officeのみ	Webサーバーに IISを利用している。	Windows版のApacheは、カスタムアプリ連携ガイドに対応していません。
ユーザー情報を同期する場合	サイボウズ Officeが未使用の状態である。 または Garoonとユーザー情報を同期済みのデヂエを、サイボウズ Officeにバージョンアップする。	詳細は次のページを参照してください。 「カスタムアプリ連携が可能な環境の組み合わせ - 9ページ」
ユーザー情報を同期しない場合	サイボウズ Officeが未使用でも運用中でも、どちらでも可能。	
両製品で、必要なライセンスがある。		・ **Garoon**: 有効な継続サービスライセンスがある。 ・ **サイボウズ Office**: ライセンスがプレミアムコースであり、かつ、有効な継続サービスライセンスがある。
両製品をインストールしたサーバーが、互いにFQDN(完全修飾ドメイン名)で名前解決できる。		
両製品で、「オープン統合認証 ver.2」による共通認証を設定している。		ユーザー情報を同期する場合のみ、設定が必要です。

注意

- カスタムアプリ連携を設定する際、ユーザー数は、300 人以下を推奨しています。
  300 人を超えるユーザー数での運用をご検討の場合は、サイボウズ オフィシャルパートナー、または販売元にお問い合わせください。
  『パートナー』:
  https://topics.cybozu.co.jp/products/partner/

3.1　カスタムアプリ連携が可能な環境の組み合わせ

前述の必要な条件を満たす場合、カスタムアプリ連携が可能な環境の組み合わせは、次のとおりです。

Garoon	＋	サイボウズ Office	＝	カスタムアプリ連携の可否
新規インストール	＋	新規インストール(Windows版のみ)	＝	可能
運用中の環境	＋	新規インストール(Windows版のみ)	＝	

運用中の環境	＋	運用中の環境	＝	可能 （ただし、ユーザー情報の同期は不可）
新規インストール	＋	運用中の環境	＝	
運用中の環境	＋	Garoonとユーザー情報を同期済みのデヂエを、サイボウズ Officeにバージョンアップする環境	＝	可能

注意

- サイボウズ Officeが運用中の場合、ユーザー情報の同期はできません。
  サイボウズ Officeが運用中の環境で、ユーザー情報を同期すると、サイボウズ Officeに登録済みのユーザーや組織の情報が削除されたり、アクセス権や通知などの設定が削除されたりします。
  詳細は、次のページを参照してください。
  「Garoonとサイボウズ Officeの情報が異なる状態で同期した場合の影響 - 15ページ」
- サイボウズ OfficeのLinux版は、カスタムアプリ連携に対応していません。
- Garoonは、Windows版とLinux版の両方とも、カスタムアプリ連携に対応しています。
  新規インストールの場合は、インストール後にユーザーや組織など、運用に必要な設定をしてください。

補足

- Garoonやサイボウズ Officeのインストールや各種設定の手順は、次のページを参照してください。
  - 『Garoonヘルプ』: バージョン 4.6向け
    https://jp.cybozu.help/ja/g46/index.html
  - 『サイボウズ Office 10 マニュアル』
    https://jp.cybozu.help/ja/of10/index.html

4章　Step2:サイボウズ Office連携が使用可能かどうかを確認する

Garoonのアプリケーション一覧で、サイボウズ Office連携の状態が使用可能かどうかを確認します。

操作手順:

1. **システム管理者で、Garoonのシステム管理画面にアクセスします。**

   『Garoon ヘルプ』: Garoonの管理画面にアクセスする

   https://jp.cybozu.help/ja/g46/admin/system/basic/access.html#basic_access_02

2. **[基本システムの管理] > [アプリケーション] > [アプリケーション一覧] の順にクリックします。**

3. **「アプリケーションの一覧」画面で、「dezielink」の使用欄が「使用停止」と表示されていることを確認します。**

   [使用開始]と表示されている場合は、[使用開始]をクリックします。

- **使用欄の見かた:**
  - 使用中の状態であれば、[使用停止]と表示されます。
  - 使用停止の状態であれば、[使用開始]と表示されます。

5章　Step3:ユーザー情報の同期が必要かどうかを確認する

ユーザー情報の同期は、サイボウズ Officeの運用開始前に設定する必要があります。

準備したGaroonとサイボウズ Officeをどのように運用するかを確認し、ユーザー情報の同期の必要性を判断してください。

ユーザー情報の同期とは？

ユーザー情報の同期は、Garoonとサイボウズ Officeで、ユーザーや組織のデータを同期することを指します。

ユーザー情報を同期すると、Garoon側のユーザーや組織のデータがマスターデータとして扱われ、サイボウズ Officeに反映されます。

サイボウズ Office側でデータを書き換えても、次回の同期時にGaroon側のデータで上書きされます。

サイボウズ Officeではユーザーは管理せず、カスタムアプリのみ使用する、といった運用をする場合は、ユーザー情報を同期することを推奨します。

ユーザー情報の同期の必要性の目安

ユーザーや組織情報をどのように管理するかによって、ユーザー情報の同期の必要性が異なります。

Garoon側でユーザーや組織を一括管理する場合	カスタムアプリ連携には、次の4つの設定が必要です。 ・ サイボウズ Office連携の設定 ・ ユーザー情報を同期するタイミングの設定 ・ ガルーンとの連携の設定 ・ Garoonのポータルにカスタムアプリのポートレットの配置
Garoonとサイボウズ Officeで別々にユーザーや組織を管理する場合	カスタムアプリ連携には、次の3つの設定をします。 ・ サイボウズ Office連携の設定 ・ ガルーンとの連携の設定 ・ Garoonのポータルにカスタムアプリのポートレットの配置

6章　Step4-A:ユーザー情報を同期する場合

Garoonとサイボウズ Officeでユーザー情報を同期する手順や注意事項などを説明します。

ユーザー情報を同期しない場合は、Step4-Aは不要です。Step4-Bに進みます。

「7章 Step4-B:ユーザー情報を同期しない場合」 - 22ページ

6.1　【1】ユーザー情報を同期する前に確認すること

ユーザー情報の同期は、初回だけに限らず、ユーザーや組織の情報に変更が入るたびに、再度データを同期する必要があります。

同期するタイミングが初回か、2回目以降かで、気を付けることは異なります。

ユーザー情報を同期する前に、下記の制限事項や注意点を確認してください。

補足

- ユーザー情報の同期漏れを防げるよう、Garoonで自動同期のタイミングを設定できます。
  「6.4 【4】ユーザー情報の自動同期を設定する」 - 18ページ

6.1.1　同期に関する制限事項

Garoonとサイボウズ Officeのユーザー情報の同期には、次の制限事項があります。

- GaroonのAdministratorは、サイボウズ Officeに追加されません。
- ユーザー情報を同期しても、ユーザーのパスワードは手動で設定する必要があります。ユーザーのパスワードは同期されません。
- サイボウズ Office側でユーザーや組織のデータを書き換えても、次回の同期時にGaroon側のデータで上書きされます。
- 同期すると、Garoonの組織の組織コードが、サイボウズ Officeの組織に付与されます。
  サイボウズ Office側の組織コードは、「組織の変更」画面でのみ確認できます。
  （サイボウズ Officeではグループコードと表示されます。）
- Garoon側に削除対象のユーザーがいる状態でユーザー情報を同期した場合、同期後にGaroonで削除対象のユーザーを復旧しても、サイボウズ Officeには自動的に反映されません。
  再度、ユーザー情報を同期する必要があります。
- Garoonのユーザー名の英語表記やローカライズに関する情報は、サイボウズ Officeに同期されません。

6.1.2 初回の同期で注意すること

初回の同期では、Garoonのデータが、サイボウズ Officeに反映されます。
ただし、ユーザーのパスワードは同期されません。
同期後に、管理者が手動で、サイボウズ Office側のユーザーのパスワードを設定する必要があります。
詳細は次のマニュアルを参照してください。
『サイボウズ Office 10 マニュアル』ログイン名やパスワードを変更する
https://jp.cybozu.help/ja/of10/admin/sys/s03/user.html#admin_sys_s03_user_03

その他の制限事項は、次のページを確認してください。
「6.1.1 同期に関する制限事項」 - 13ページ

6.1.3 2回目以降の同期で注意すること

2回目以降のユーザー情報の同期は、Garoonとサイボウズ OfficeでデータがIDが同一であるかどうかによって、挙動が異なります。

同期するGaroonの情報		補足
ユーザー情報	ログイン名 名前 E-mail 所属する組織	**●Garoonとサイボウズ Officeで、同じログイン名が設定されている場合** Garoonの情報を、サイボウズ Officeに反映します。 ユーザーのパスワードは同期されません。必要に応じて、サイボウズ Office側のパスワードを手動で変更します。
		●Garoonのみにログイン名が存在する場合 サイボウズ Officeに不足しているユーザーを、サイボウズ Officeに追加します。追加される情報は、Garoonの情報を使用します。 ユーザーのパスワードは同期されません。必要に応じて、サイボウズ Office側のパスワードを手動で変更します。
		●サイボウズ Officeのみにログイン名が存在する場合 Garoonに存在しないユーザーを、サイボウズ Officeから削除します。
組織情報	組織名 組織コード 組織に所属するユーザー	**●Garoonとサイボウズ Officeで、同じ組織コードが設定されている場合** Garoonの情報を、サイボウズ Officeに反映します。
		●Garoonのみに組織コードが存在する場合 サイボウズ Officeに不足している組織(グループ)を、サイボウズ Officeに追加します。追加される情報は、Garoonの情報を使用します。
		●サイボウズ Officeのみに組織コードが存在する場合 Garoonに存在しない組織(グループ)を、サイボウズ Officeから削除します。

注意

- ユーザー情報の同期後にGaroonの組織コードを変更する場合は、サイボウズ Officeのグループコードをあわせて変更する必要があります。
  Garoonのデータだけを変更していると、次回の同期時にサイボウズ Officeのグループが削除されます。

6.1.4 Garoonとサイボウズ Officeの情報が異なる状態で同期した場合の影響

Garoonとサイボウズ Officeの情報が異なると、サイボウズ Office側で、ユーザーや組織の情報が削除されたり、アクセス権や通知などの設定が削除されたりします。

設定内容が異なる状態で同期した場合の影響は、次のとおりです。

異なる情報	サイボウズ Office への影響	補足
ユーザーの ログイン名	**●Garoonのみに存在する場合:** サイボウズ Officeに不足しているユーザーを追加します。 追加される情報は、Garoonの情報を使用します。	
	●サイボウズ Officeのみに存在する場合: Garoonに存在しないユーザーを、サイボウズ Officeから削除します。	削除されるユーザーに対する次の設定は解除されます。 ・ システム管理者 ・ サポート登録者 ・ アプリの運用管理者 ・ アクセス権 ・ 更新通知 ・ RSS通知の表示ユーザー ・ 最初に選択されるビュー ・ 「メニュー(ユーザー)」項目 ・ ユーザーの個人設定の設定内容
ユーザーの名前	Garoonの情報が、サイボウズ Officeに反映されます。 同期後にユーザーの名前が変更されると、同期前にユーザーの名前を利用して設定していた機能が正常に動作しない場合があります。	各アプリの次の機能で、ユーザーの名前を利用しています。 ・ レコード登録者のアクセス権 ・ レコード登録者へのメール通知 同期後にユーザー名が変更されている場合は、上記の設定を見直してください。
組織コード グループコード	**●Garoonのみに存在する場合:** サイボウズ Officeに不足している組織(グループ)を追加します。 追加される情報は、Garoonの情報を使用します。	
	●サイボウズ Officeのみに存在する場合: Garoonに存在しない組織(グループ)を、サイボウズ Officeから削除します。	削除される組織(グループ)に対する次の設定は解除されます。 ・ システム管理者 ・ アプリの運用管理者 ・ アクセス権 ・ 更新通知 ・ RSS通知の表示ユーザー ・ 最初に選択されるビュー ・ 「メニュー(ユーザー)」項目

6.2 【2】オープン統合認証ver.2を設定する

Garoonとサイボウズ Officeの両方に、オープン統合認証ver.2を設定します。
次の項目は、Garoonとサイボウズ Officeで同一の値を設定する必要があります。

- 認証パスワード
- 発行ドメイン

操作手順:

1. **【Garoon側の作業】システム管理者で、システム管理画面にアクセスします。**

   『Garoon ヘルプ』: Garoonの管理画面にアクセスする

   https://jp.cybozu.help/ja/g46/admin/system/basic/access.html#basic_access_02

2. **【Garoon側の作業】認証形式に「オープン統合認証 ver.2」を選択して、セッション認証を追加します。**

   『Garoon ヘルプ』: セッション認証を追加する

   https://jp.cybozu.help/ja/g46/admin/system/authenticate/session.html#authenticate_session_01

3. **【Garoon側の作業】「標準認証」と「オープン統合認証ver.2」を使用中に変更します。**

   『Garoon ヘルプ』: セッション認証を選択する

   https://jp.cybozu.help/ja/g46/admin/system/authenticate/usage.html#authenticate_usage_02

4. **【サイボウズ Office側の作業】システム管理者で、システム設定画面にアクセスします。**

   『サイボウズ Office 10 マニュアル』: システム管理画面にアクセスする

   https://jp.cybozu.help/ja/of10/admin/sys/s01/access.html#admin_sys_s01_access_01

5. **【サイボウズ Office側の作業】モードに「オープン統合認証ver.2」を選択して、連携認証を設定します。**

   『サイボウズ Office 10 マニュアル』:連携認証の設定手順

   https://jp.cybozu.help/ja/of10/admin/sys/s10/auth.html#admin_sys_s10_auth_02

6. **連携認証の設定が完了していることを確認します。**

   次の操作をします。

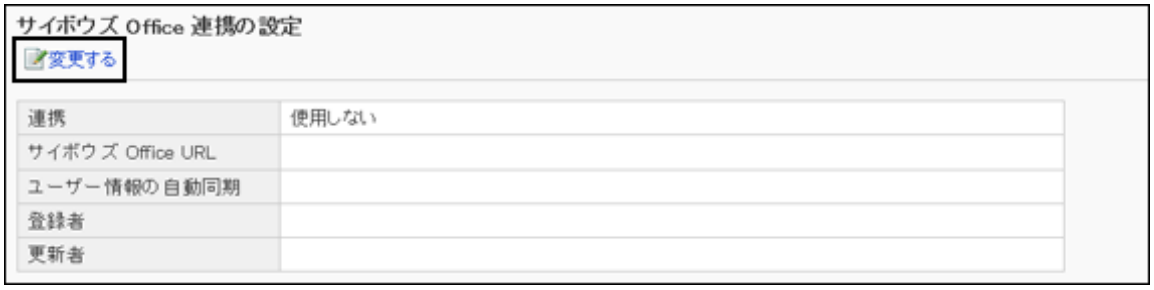
   1. Garoonとサイボウズ Officeの両方からログアウトします。
   2. すべてのWebブラウザーを閉じます。
   3. Webブラウザーを再起動し、Garoonにログインします。
   4. サイボウズ Officeにアクセスし、ログイン状態であることを確認します。

6.3　【3】サイボウズ Office連携を有効にする

Garoonで、サイボウズ Office連携を有効にします。

操作手順:

1. **システム管理者で、Garoonのシステム管理画面にアクセスします。**
2. **[各アプリケーションの管理] > [サイボウズ Office / デヂエ連携] > [サイボウズ Office 連携の設定] の順にクリックします。**
3. **「サイボウズ Office 連携の設定」画面で、[変更する]をクリックします。**



4. **「サイボウズ Office 連携の変更」画面で、次の設定をします。**
   - 「連携」項目を、「使用する」に変更する
   - 「サイボウズ Office URL」項目に、連携するサイボウズ Officeへのアクセス URLを入力する

5. **ユーザー情報を同期するタイミングを設定します。**

「6.4 【4】ユーザー情報の自動同期を設定する」 - 18ページ

6.4 【4】ユーザー情報の自動同期を設定する

Garoonで、ユーザー情報を同期するタイミングを設定します。この自動同期は2回目以降の同期に適用されます。初回の同期は、自動同期を設定したあと、手動で行います。

補足

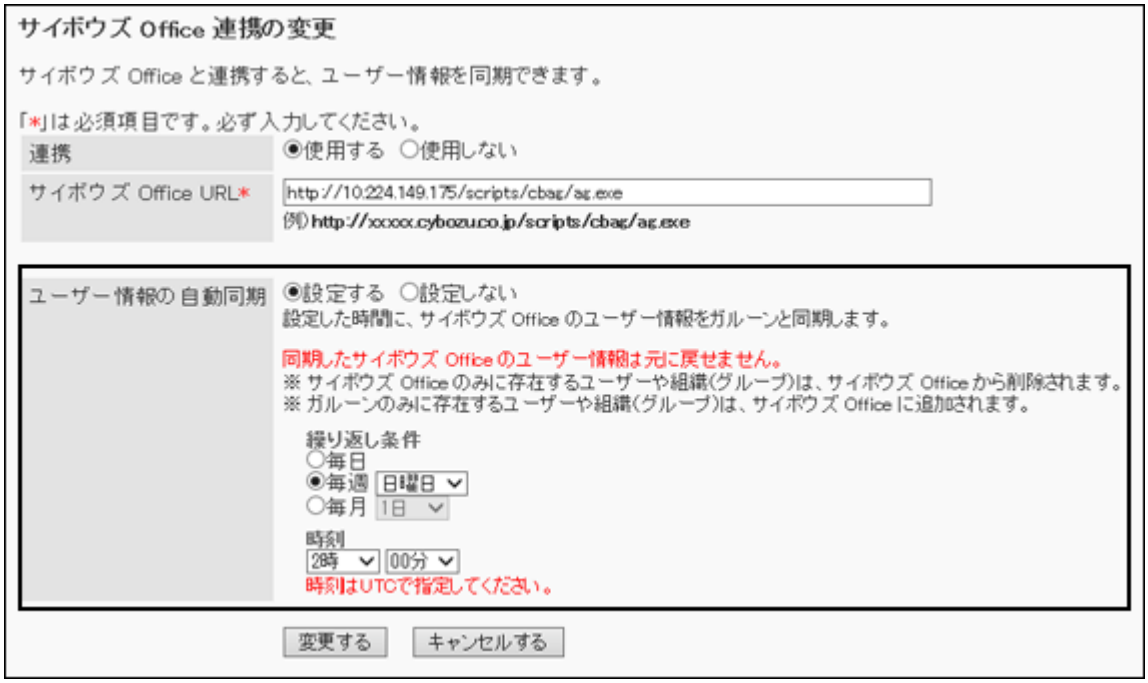
- ユーザー情報の自動同期のタイミングは、ユーザーがアクセスしない時間帯に設定することを推奨します。
- 自動同期の時刻は、UTCの標準時で設定します。
- ユーザー情報の自動同期を設定すると、設定内容が次のログファイルに出力されます。
  - Windowsの場合: C:¥InetPub¥Scripts¥cbgrn¥sched.log
  - Linux版の場合: /var/www/cgi-bin/cbgrn/sched.log

操作手順:

1. **Garoonで、サイボウズ Office連携を有効にします。**

   「6.3【3】サイボウズ Office 連携を有効にする」 - 17 ページ

2. **「サイボウズ Office 連携の変更」画面で、ユーザー情報の自動同期に関する設定をします。**
   - 「ユーザー情報の自動同期」項目を、「設定する」に変更する
   - 「繰り返し条件」欄で、ユーザー情報を同期するタイミングを選択する



3. **画面下部の[変更する]をクリックします。**

設定が保存されると、次の画面が表示されます。

6.5　【5】ユーザー情報を手動で同期する

Garoonとサイボウズ Officeのユーザー情報を手動で同期します。
手動同期は、次の場合に実施します。

- ユーザー情報を初めて同期する場合
- Garoon側のユーザーや組織のデータ更新を即座に同期したい場合

補足

- ユーザー情報の手動同期は、ユーザーがアクセスしない時間帯に実施することを推奨します。

操作手順:

1. **システム管理者で、Garoonのシステム管理画面にアクセスします。**

2. **[各アプリケーションの管理] > [サイボウズ Office / デヂエ連携] > [サイボウズ Office 連携の設定] の順にクリックします。**

3. **「サイボウズ Office連携の設定」画面で、[手動で同期する]をクリックします。**

4. **確認画面で、[はい]をクリックします。**

ユーザー情報の同期が開始されます。

キャンセルする場合は、[いいえ]をクリックします。

同期が終了すると、次の画面が表示されます。

6.6 【6】同期後の動作確認をする

Garoonのユーザーや組織のデータが、サイボウズ Officeに同期されていることを確認します。

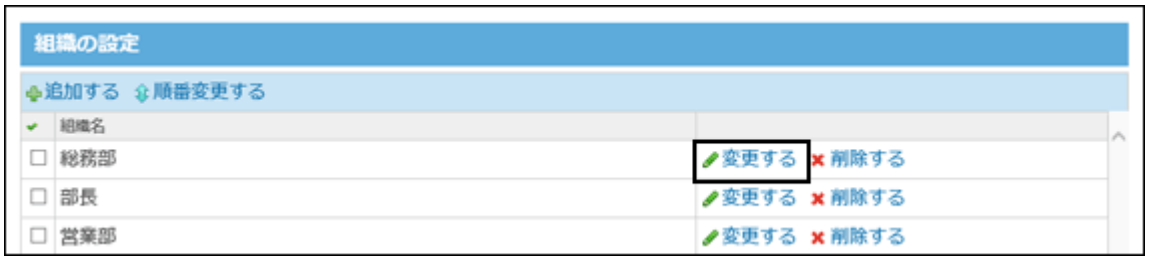
操作手順:

1. **【Garoon側の作業】システム管理者で、システム管理画面にアクセスします。**
2. **【Garoon側の作業】「基本システムの管理」 > 「ユーザー」 > 「組織 / ユーザーの設定」の順にクリックします。**
3. **【Garoon側の作業】任意の組織を選択し、所属するユーザーを確認します。**

4. **【サイボウズ Office側の作業】システム管理者で、システム設定画面にアクセスします。**
5. **【サイボウズ Office側の作業】[組織]をクリックします。**

   組織が、手順3で確認したGaroonの組織と同一であることを確認します。

6 【サイボウズ Office側の作業】手順3で確認した組織の[変更する]をクリックします。



7 【サイボウズ Office側の作業】所属ユーザーが、手順3で確認したGaroonのユーザーと同一であることを確認します。

問題なければ、[キャンセルする]をクリックします。

7章 Step4-B:ユーザー情報を同期しない場合

Garoonとサイボウズ Officeで、別々にユーザーや組織を管理する場合は、ユーザー情報を同期せずに、オープン統合認証Ver.2を設定します。

7.1 【1】サイボウズ Officeで、運用に必要な設定をする

ユーザーや組織、各アプリケーションの設定など、サイボウズ Officeの運用に必要な設定をします。
詳細は次のマニュアルを参照してください。
『サイボウズ Office 10 マニュアル』:
https://jp.cybozu.help/ja/of10/index.html

7.2 【2】オープン統合認証Ver.2を設定する

Garoonとサイボウズ Officeの両方に、オープン統合認証ver.2を設定します。
次の項目は、Garoonとサイボウズ Officeで同一の値を設定する必要があります。

- 認証パスワード
- 発行ドメイン

操作手順:

1. **【Garoon側の作業】システム管理者で、システム管理画面にアクセスします。**

   『Garoon ヘルプ』: Garoonの管理画面にアクセスする

   https://jp.cybozu.help/ja/g46/admin/system/basic/access.html#basic_access_02

2. **【Garoon側の作業】認証形式に「オープン統合認証ver.2」を選択して、セッション認証を追加します。**

   『Garoon ヘルプ』: セッション認証を追加する

   https://jp.cybozu.help/ja/g46/admin/system/authenticate/session.html#authenticate_session_01

3. **【Garoon側の作業】「標準認証」と「オープン統合認証ver.2」を使用中に変更します。**

   『Garoon ヘルプ』: セッション認証を選択する

   https://jp.cybozu.help/ja/g46/admin/system/authenticate/usage.html#authenticate_usage_02

4. **【サイボウズOffice側の作業】システム管理者で、システム設定画面にアクセスします。**

   『サイボウズOffice 10 マニュアル』: システム管理画面にアクセスする

   https://jp.cybozu.help/ja/of10/admin/sys/s01/access.html#admin_sys_s01_access_01

5. **【サイボウズOffice側の作業】モードに「オープン統合認証ver.2」を選択して、連携認証を設定します。**

『サイボウズOffice 10 マニュアル』:連携認証の設定手順

https://jp.cybozu.help/ja/of10/admin/sys/s10/auth.html#admin_sys_s10_auth_02

6. **連携認証の設定が完了していることを確認します。**

次の操作をします。

1. GaroonとサイボウズOfficeの両方からログアウトします。
2. すべてのWebブラウザーを閉じます。
3. Webブラウザーを再起動し、Garoonにログインします。
4. サイボウズOfficeにアクセスし、ログイン状態であることを確認します。

8章　Step5：連携するアプリを準備する

サイボウズ Officeのカスタムアプリで、Garoonのポータルに表示するアプリを準備します。
アプリの設定で、次の設定をしておくと、Garoonでのポートレットの作成がスムーズです。

- ビュー（データの見せ方）
- レコードの集計条件
- アクセス権
- 更新通知

カスタムアプリの操作は、次の『サイボウズ Office 10 マニュアル』の「カスタムアプリ」セクションを参照してください。

- システム管理者の操作：https://jp.cybozu.help/ja/of10/admin_app/ap/index.html
- ユーザーの操作：https://jp.cybozu.help/ja/of10/user_app/ap/index.html

作業フローは、次の図を参照してください。

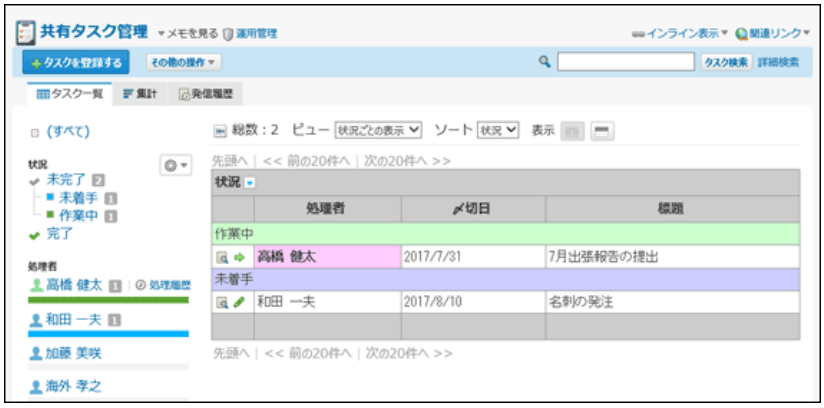
サイボウズ Office にアクセスします。

すでに、「ガルーンとの連携」を有効にしている場合は、
直接、カスタムアプリの画面が表示されます。

必要なアプリが作成済みであることを確認します。

または

必要に応じて、新しいアプリを作成します。



次のことを確認します。

●レコードが登録済みであること

●ビュー（データの見せ方）、集計条件などが設定済みであること

●アクセス権や更新通知の設定に問題がないこと

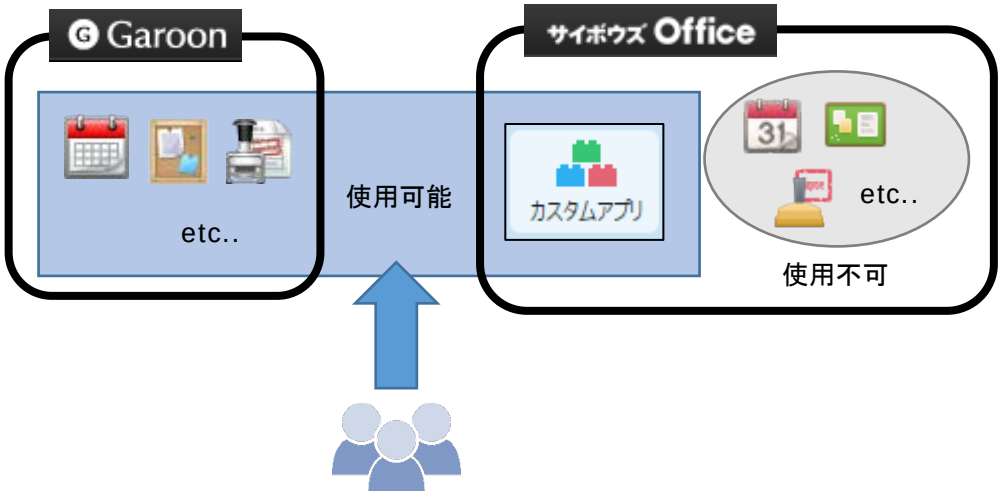
「ガルーンとの連携」の設定へ

9章　Step6:「ガルーンとの連携」を有効にする

サイボウズ Officeの「ガルーンとの連携」は、スケジュールや掲示板など主な運用をGaroonで行うことを前提に、サイボウズ Officeを「カスタムアプリ」だけに限定して運用する機能です。

Garoon側でスケジュールや掲示板などを運用し、売り上げ管理などのデータ管理をカスタムアプリで運用する、といった使い方ができます。

「ガルーンとの連携」を有効にした場合のイメージ:



「サイボウズ Office連携」や「ガルーンとの連携」を有効にするだけでは、Garoonのポータルにカスタムアプリのデータは表示されません。

Garoon側とサイボウズ Office側で、各連携の設定が完了したあと、Garoonでカスタムアプリのポートレットを準備し、ポータルに配置する必要があります。

補足

- 「ガルーンとの連携」を有効にすると、サイボウズ Officeの画面に表示されるメニューの数やリンクの挙動が変わります。
  詳細は次のページを参照してください。
  「13章「ガルーンとの連携」の仕様」 - 36ページ

操作手順:

1. **システム管理者で、サイボウズ Officeのシステム設定画面にアクセスします。**

2. **WebブラウザーのURL欄に、次のURLを入力し、アクセスします。**

   「ガルーンとの連携」画面が表示されます。

	URL
Windows環境	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名) /scripts/cbag/ag.exe?page=SystemLibraryModeAdmin

3. **「カスタムアプリのみ有効にする」を選択し、[設定する]をクリックします。**

   設定が反映されると、サイボウズ Officeの「システム設定」画面が表示されます。

4. **アプリケーションメニューに、カスタムアプリが表示されていることを確認します。**

5. **ヘッダーの製品ロゴをクリックし、カスタムアプリのルートフォルダが表示されることを確認します。**

   Garoonとサイボウズ Officeを別々のサーバーにインストールしている場合、Garoonのポータルにカスタムアプリのポートレットを表示するためには、サイボウズ Office側のクリックジャッキング対策を無効にする設定が必要です。手順6に進んでください。

6. **サイボウズ Officeをインストールしているサーバーに、Administrator権限を持つユーザーでログインします。**

7. **「debug.ini」ファイルを作成します。**

   - 最新のサイボウズ Office 10を新規にインストールしてお使いの場合:
     データディレクトリの下に、「debug.ini」ファイルを作成します。
     例:
     C:¥cybozu¥office¥cbag¥debug.ini
   - サイボウズ Office 9以前をバージョンアップして、最新のサイボウズ Office 10をお使いの場合:
     インストールディレクトリの下に、「debug.ini」ファイルを作成します。
     例:
     C:¥inetpub¥scripts¥cbag¥debug.ini

8. **テキストエディタで、作成した「debug.ini」ファイルを開き、次の値を記載して保存します。**

```
[Server]
XFrameOptions=
```

これで、Garoon側とサイボウズ Office側の各連携の設定は完了です。

次に、Garoonのポータルに、必要なカスタムアプリのポートレットを配置します。

10章 Step7:カスタムアプリのポートレットを準備する

Garoonのポータルに、カスタムアプリの通知やアプリ内のレコード一覧を表示できるポートレットを準備します。
よく使うアプリのポートレットを準備してポータルに配置すると、Garoonの画面から、アプリの通知やアプリ内のレコード一覧、作業の進捗状況などを確認できます。

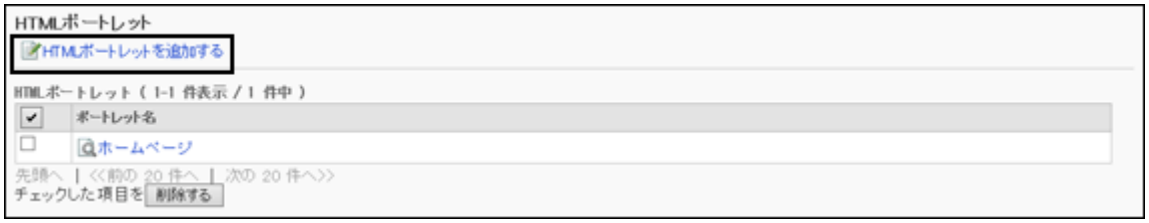
カスタムアプリのデータを確認できるポートレット（以降、カスタムアプリのポートレット）は、Garoonの「HTMLポートレットの追加」画面で作成します。
この画面は、「システム管理」、「個人設定」のそれぞれで用意されています。

「システム管理」で作成したHTMLポートレット	Garoonの全ユーザーで利用可能です。
「個人設定」で作成したHTMLポートレット	作成したユーザーだけが利用可能です。

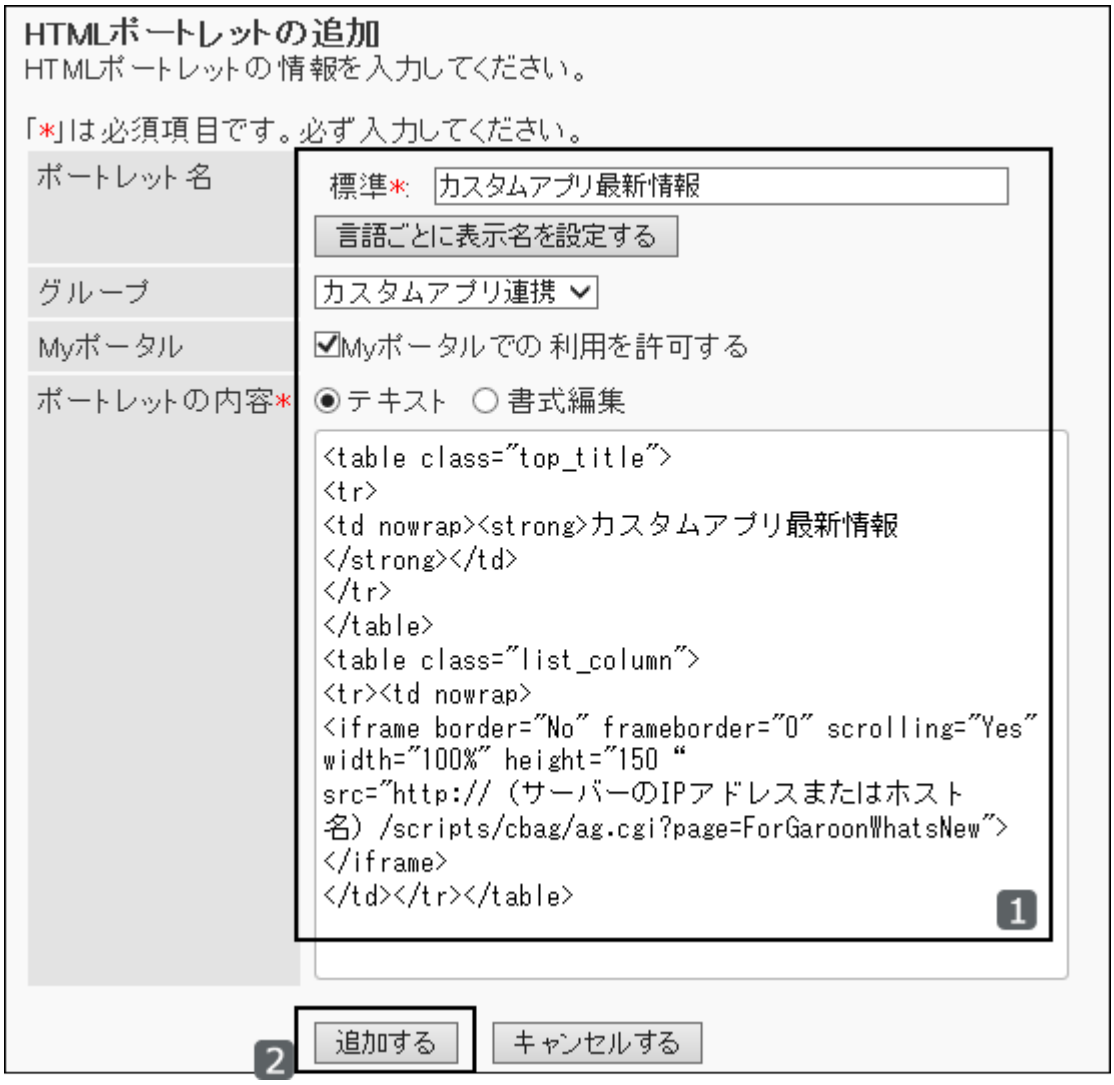
上記のどちらの場合もHTMLポートレットの作成方法は同じです。
このページでは、「システム管理」でHTMLポートレットを作成する手順を案内します。

操作手順:

1. **Garoonとサイボウズ Officeを別々のサーバーにインストールしている場合は、「debug.ini」ファイルの設定を確認します。**
   詳細は、「9章　Step6:「ガルーンとの連携」を有効にする」- 26ページを参照してください。
2. **システム管理者で、Garoonのシステム管理画面にアクセスします。**
3. **[各アプリケーションの管理] > [ポータル] > [HTMLポートレット]の順にクリックします。**
4. **「HTMLポートレット」画面で、[HTMLポートレットを追加する]をクリックします。**



5. **「HTMLポートレットの追加」画面で、HTMLポートレットの項目を設定し、[追加する]をクリックします。**



「ポートレットの内容」に記述するHTMLの詳細は、次のページを参照してください。

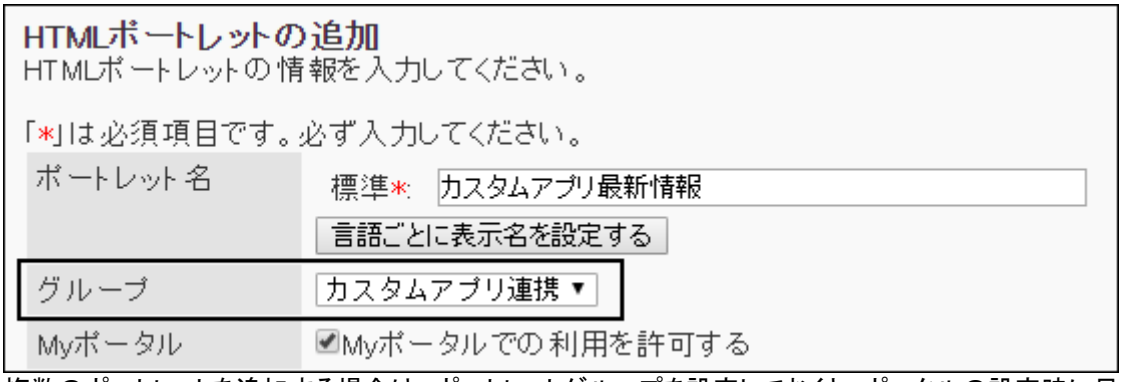
「14.1「カスタムアプリ最新情報」ポートレットの記述例」 - 39ページ

「14.2「カスタムアプリ(レコード一覧)」ポートレットの記述例」 - 40ページ

「14.3「カスタムアプリ(集計表示)」ポートレットの記述例」 - 43ページ

補足

- 「グループ」項目は、ポートレットグループを作成している場合に選択できます。



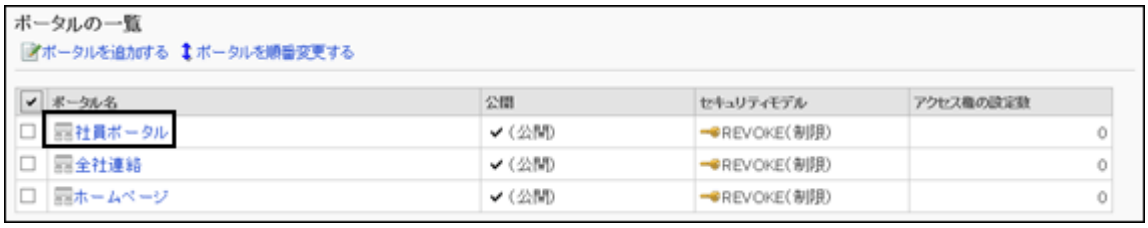
複数のポートレットを追加する場合は、ポートレットグループを設定しておくと、ポータルの設定時に目的のポートレットを探しやすくなります。
設定の詳細は、次のヘルプを参照してください。
『Garoon ヘルプ』:ポートレットグループを追加する
https://jp.cybozu.help/ja/g46/admin/application/portal/group.html#portal_group_01

11章 Step8：ポートレットをポータルに配置する

ポータルに、準備したカスタムアプリのポートレットを配置します。
ポータルの設定の詳細は、次のヘルプを参照してください。
『Garoon ヘルプ』：ポータル
https://jp.cybozu.help/ja/g46/admin/application/portal/index.html

操作手順：

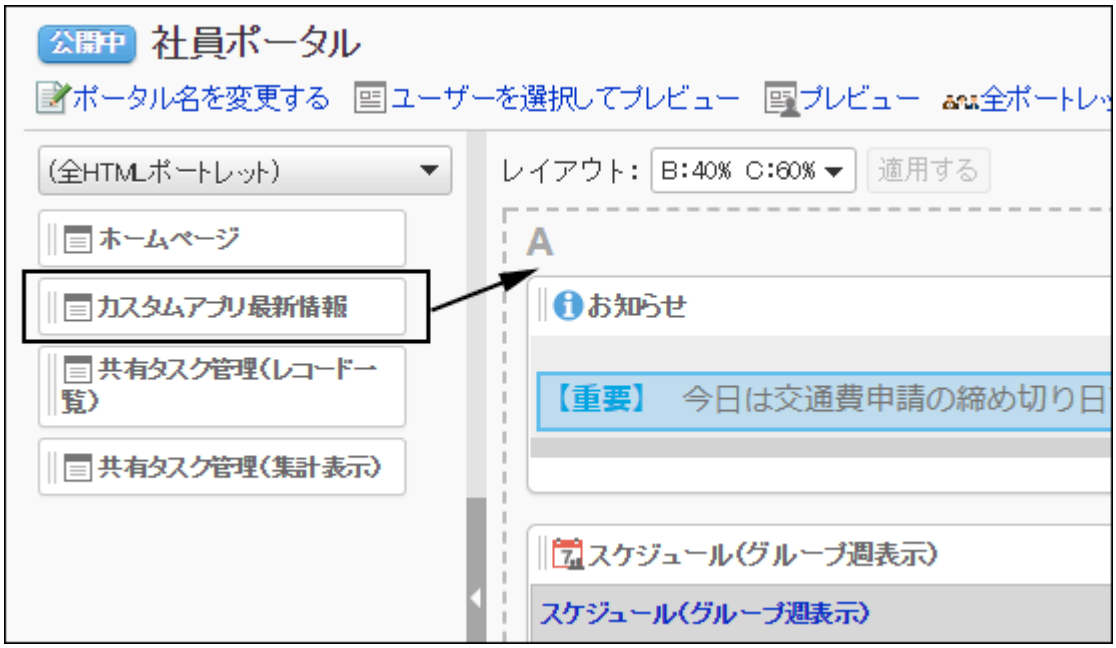
1. **Garoonとサイボウズ Officeを別々のサーバーにインストールしている場合は、「debug.ini」ファイルの設定を確認します。**
   詳細は、「9章　Step6：「ガルーンとの連携」を有効にする」- 26ページを参照してください。
2. **システム管理者で、Garoonのシステム管理画面にアクセスします。**
3. **「各アプリケーション」 > 「ポータル」 > 「ポータルの一覧」 の順にクリックします。**
4. **準備したポートレットを配置するポータルをクリックします。**



5. **ポータルの詳細画面の左上のメニューをクリックし、「（全HTMLポートレット）」を選択します。**

6. **ポータルの任意の場所に、目的のポートレットを配置します。**

ポートレットの配置は、ドラッグアンドドロップで操作します。



7. **ポータルのプレビューを確認します。**

詳細は次のヘルプを参照してください。

『Garoon ヘルプ』: ポータルの表示を確認する

https://jp.cybozu.help/ja/g46/admin/application/portal/prtl_check.html

12章 ユーザー情報を同期済みのデヂエを、サイボウズ Officeにバージョンアップする場合

このセクションは、Garoonとデヂエで、ユーザー情報を同期して運用しているユーザー向けの説明です。

Garoonとユーザー情報を同期していたデヂエを、バージョン 10.8以降のサイボウズ Officeにバージョンアップする場合は、ユーザー情報の同期を引き続き設定できます。
ただし、デヂエ連携で利用していたポートレットは継続して利用できません。
サイボウズ Officeにバージョンアップ後、カスタムアプリ連携で使用するポートレットを準備する必要があります。

ユーザー情報を同期済みのデヂエを、サイボウズ Officeにバージョンアップする流れ

Step 1	カスタムアプリ連携に必要な条件を確認する 「Step1:カスタムアプリ連携に必要な条件を確認する - 9ページ」
Step 2	Garoonとデヂエのユーザー情報の同期を解除する 『デヂエ連携ガイド』: バージョン 4.6向け https://jp.cybozu.help/ja/g4/guide/index.html#guide_index_08
Step 3	Garoonからデヂエ連携で利用していたデヂエポートレットを削除する 詳細は、次の『Garoon ヘルプ』を参照してください。 システム管理者の操作: https://jp.cybozu.help/ja/g46/admin/application/portal/edit.html#portal_edit_05 ユーザーの操作: https://jp.cybozu.help/ja/g46/user/application/portal/myportal_edit.html#portal_myportal_edit_03
Step 4	Garoonをバージョン 4.6以降にバージョンアップする 『Garoonインストールガイド』: バージョン4.6向け https://jp.cybozu.help/ja/g4/guide/index.html#guide_index_03

Step 5	デヂエを、バージョン 10.8以降のサイボウズ Officeにバージョンアップする 『サイボウズ Office 10 マニュアル』: バージョンアップ • Windowsの場合: https://jp.cybozu.help/ja/of10/intro/verup/win/dz.html サイボウズ OfficeのLinux版は、カスタムアプリ連携に対応していません。 このため、Linux版のデヂエをお使いの場合は、次の作業が必要です。 • デヂエのサーバーを、LinuxからWindowに移行する 『デヂエ 8 マニュアル』:サーバー／ドライブを移行する https://manual.cybozu.co.jp/dezie8/install/move.html • サーバー移行後に、デヂエをサイボウズ Officeにバージョンアップする

▼

Step 6	サイボウズ Office連携が使用可能かを確認する 「Step2:サイボウズ Office連携が使用可能かどうかを確認する - 11ページ」

▼

Step 7	Garoonとサイボウズ Officeでユーザー情報を同期する 「Step4-A:ユーザー情報を同期する場合 - 13ページ」

▼

Step 8	連携するカスタムアプリを準備する 「Step5:連携するアプリを準備する - 24ページ」

▼

Step 9	ガルーンとの連携を有効にする 「Step6:「ガルーンとの連携」を有効にする - 26ページ」

▼

Step 10	カスタムアプリのポートレットを準備する 「Step7:カスタムアプリのポートレットを準備する - 28ページ」

▼

Step 11	ポートレットをポータルに配置する 「Step8:ポートレットをポータルに配置する - 31ページ」

▼

Step 12	ユーザーにカスタムアプリの利用開始を連絡する

13章「ガルーンとの連携」の仕様

サイボウズ Officeの「ガルーンとの連携」を有効にすると、サイボウズ Officeの画面に表示されるメニューの数やリンクの挙動が変わります。

13.1 連携を有効にしても変わらないこと

- サイボウズOfficeは日本語のみに対応しています。
  ユーザーの表示言語の設定にかかわらず、カスタムアプリの画面は日本語で表示されます。
- Garoonのタイムゾーンの設定は、カスタムアプリには適用されません。
- 「ガルーンとの連携」の有無による、カスタムアプリの機能や操作範囲の差異はありません。
- ケータイやKUNAIの画面では、カスタムアプリの通知を確認できません。
  ケータイやKUNAIで通知を確認するには、カスタムアプリのメール通知を、端末のメールアドレスで受信できるように設定します。

13.2 連携の有効 / 無効による挙動の違い

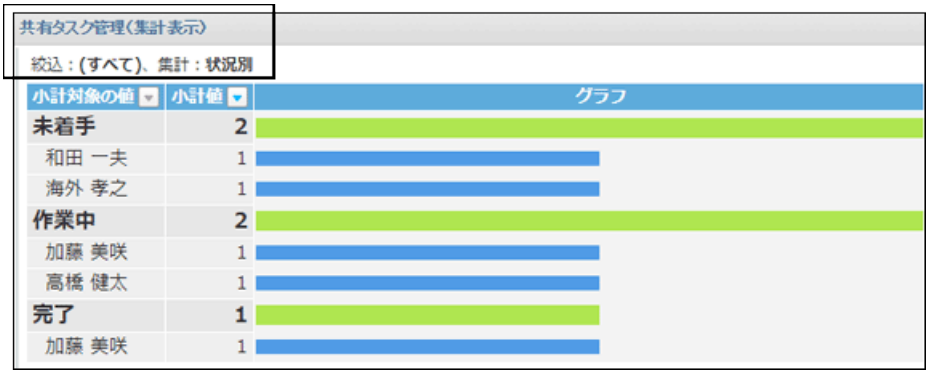
「ガルーンとの連携」を有効にするかどうかによって、サイボウズ Officeの画面に表示されるメニューやリンクなどの挙動が変わります。

サイボウズ Officeの メニューやリンク	「ガルーンとの連携」が 有効の場合	「ガルーンとの連携」が 無効の場合
サイボウズ Officeで 利用できるアプリケーション	カスタムアプリのみ利用できます。	初期状態では、すべてのアプリケーションを利用できます。 一度連携を有効にしたあと、無効にした環境では、カスタムアプリの利用のみ有効になっています。 必要に応じて、ほかのアプリケーションの利用を有効にしてください。
カスタムアプリの 利用ユーザーを制限する操作	設定できません。	・ 設定画面： サイボウズOfficeのシステム設定の「個人に許可するアプリケーション」 ・ 操作： カスタムアプリの利用を制限するユーザーに対し、「カスタムアプリ」の選択を外します。
「システム設定」画面	サイボウズ Officeのシステム設定に、次のメニューが表示されません。 ・ 使用するアプリケーション ・ 個人に許可するアプリケーション	サイボウズ Officeのシステム設定に、すべてのメニューが表示されます。

サイボウズ Officeの メニューやリンク	「ガルーンとの連携」が 有効の場合	「ガルーンとの連携」が 無効の場合
	上記のメニューのURLにアクセスしようとすると、エラーが表示されます。	
「個人設定」画面	サイボウズOfficeの個人設定に、次のメニューが表示されません。 ・ トップページ ・ パワーアップツール 上記のメニューのURLにアクセスした場合は、ページを表示できます。	サイボウズ Officeの個人設定に、すべてのメニューが表示されます。
ヘッダーの製品ロゴをクリックした時の挙動 サイボウズ Office	カスタムアプリのルートフォルダが表示されます。	サイボウズ Officeのトップページが表示されます。
パンくずリストやバックリンクでトップページへのリンクをクリックした時の挙動 トップページへ	カスタムアプリのルートフォルダが表示されます。	サイボウズ Officeのトップページが表示されます。

14章 カスタムアプリのポートレットについて

Garoonのポータルでカスタムアプリのデータを表示できるポートレットは3種類です。

「カスタムアプリ最新情報」ポートレット	アプリの通知や自分の担当レコードの件数を確認する場合に便利です。 ポートレット内のメッセージをクリックすると、通知内容や、自分が担当するレコードの一覧が表示されます。
「カスタムアプリ（レコード一覧）」ポートレット	タスク管理アプリなど、ユーザーがよく参照するアプリのレコード一覧を表示すると便利です。 Garoonのポータルに、レコードの一覧を表示できます。ただし、ユーザーにアクセス権がないレコードは表示されません。
「カスタムアプリ（集計表示）」ポートレット	売上報告アプリなど、ユーザーがよく参照する集計結果を表示すると便利です。 Garoonのポータルに、レコードの集計結果を表示できます。ただし、ユーザーにアクセス権がない場合、集計結果は表示されません。 

補足

- ポートレットに表示されるカスタムアプリの操作は、次の『サイボウズ Office 10 マニュアル』の「カスタムアプリ」セクションを参照してください。
  - システム管理者の操作: https://jp.cybozu.help/ja/of10/admin_app/ap/index.html
  - ユーザーの操作: https://jp.cybozu.help/ja/of10/user_app/ap/index.html

14.1 「カスタムアプリ最新情報」ポートレットの記述例

サイボウズ Officeの「最新情報」ポートレットには、アプリの通知や自分の担当レコードの件数が表示されます。
次の表示用URLを使用してHTMLタグを記述すると、「最新情報」ポートレットを追加できます。

「最新情報」ポートレットの表示用URL:

	URL
Windows環境	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名) /scripts/cbag/ag.exe?page=ForGaroonWhatsNew

ポートレットの記述例:

```
<table class="top_title">
<tr>
<td nowrap><strong>カスタムアプリ最新情報</strong></td>
</tr>
</table>
<table class="list_column">
<tr><td nowrap>
<iframe border="No" frameborder="0" scrolling="Yes" width="100%" height="150"
src="http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/cbag/ag.exe?page=ForGaroonWhatsNew">
</iframe>
</td></tr></table>
```

a)
b)
c)

a):ポートレットのタイトルを入力します。

b):ポートレットの高さを指定します。

c):「最新情報」ポートレットの表示用URLです。

タイトルに「カスタムアプリ最新情報」を指定した例:

14.2 「カスタムアプリ(レコード一覧)」ポートレットの記述例

サイボウズ Officeの「カスタムアプリ(レコード一覧)」ポートレットには、特定のアプリのレコード一覧が表示されます。

次の表示用URLを用いてHTMLタグを記述すると、「カスタムアプリ(レコード一覧)」ポートレットを追加できます。

「カスタムアプリ(レコード一覧)」ポートレットの表示用URL:

	URL
Windows環境	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名) /scripts/cbag/ag.exe?page=ForGaroonDBView

ポートレットの記述例:

```
<table class="top_title">
<tr>
<td nowrap><strong>
<a href="http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)/scripts/cbag/ag.exe?page=DBView&did=129"
target="_blank">
共有タスク管理(レコード一覧)</a></strong></td>
</tr>
</table>
<table class="list_column">
<tr><td nowrap>
<iframe border="No" frameborder="0" scrolling="Yes" width="100%" height="500"
src="http:// (サーバーのIPアドレスまたはホスト名)
/scripts/cbag/ag.exe?page=ForGaroonDBView&did=129&QID=all&vid=137&Rows=10">
</iframe>
</td></tr></table>
```

a)
b)
c)
d)

a):ポートレットに表示するアプリを指定するURLです。お使いの環境に応じたURLを指定します。

b):ポートレットのタイトルを入力します。

c):ポートレットの高さを指定します。

d):「カスタムアプリ(レコード一覧)」ポートレットの表示用URLです。必要に応じてパラメーターを指定します。

「14.2.1 使用可能なパラメーター」 - 41ページ

タイトルに「共有タスク管理(レコード一覧)」を指定した例:

14.2.1 使用可能なパラメーター

カスタムアプリのパラメーターはURLに表示されます。

サイボウズ Officeのカスタムアプリで絞り込みやソートなどを実行すると、結果画面のURLでパラメーターを確認できます。

「カスタムアプリ(レコード一覧)」ポートレットに使用できる主なパラメーターは、次のとおりです。

パラメーター	必須	説明
page	○	「ForGaroonDBView」を指定します。 ポートレットにカスタムアプリのレコード一覧が表示されます。
DID	○	カスタムアプリのIDを指定します。 たとえば次のURLの場合、カスタムアプリのID(did)は「129」です。 http:// (サーバーのIPアドレスまたはホスト名) scripts/cbag/ag.exe?page=ForGaroonDBView&did=129&QID=all&vid=137&Rows=10
VID		表示するビューを指定します。 次のどちらかの値を指定します。 ・ all:すべての項目が表示されます。 ・ 数値:「ビュー(一覧)の設定」で登録したビューのIDを指定します。 省略すると、「最初に表示する画面の設定」の「表示するタブ」に設定された「ビュー(一覧)」または「集計」が表示されます。 「表示するタブ」が「ビュー(一覧)」の場合、次の順で使用可能なビューが適用されます。 1. 「ビュー(一覧)の設定」の「最初に選択されるビュー」 2. レコード一覧画面のビューの順番
QID		絞り込みに関連するIDです。

パラメーター	必須	説明
status		絞り込む種類によって、複数のパラメーターを使用します。 実際に絞り込みを表示したURLを基に、必要なパラメーターを確認します。 QIDを省略すると、次の順で、使用可能な絞り込みが適用されます。 1.「絞り込みの設定」の「最初に選択される絞り込み」 2. 絞り込み一覧の順番
stext		
UID		
utext		
starting[1]		
enableSelectStarting[1]		
disableSelectStarting[1]		
SID		ソートのIDです。 省略すると、次の順で、使用可能なソートが適用されます。 1.「ソートの設定」の「最初に選択されるソート」 2. ソート一覧の順番
Rows		ポートレットに表示するレコード数を指定します。 省略すると、1画面に5件までレコードが表示されます。 ・ ポートレットに10件のレコードを表示する場合の例: http://（サーバーのIPアドレスまたはホスト名） scripts/cbag/ag.exe?page=ForGaroonDBView&did=129&QID=all&vid=137&Rows=10

[1]: パラメーターを指定しても、次のどちらかの条件を満たす場合は無効になります。

- カスタムアプリで開始日が使用されていない。
- statusに「d:完了」が指定されている。

14.3 「カスタムアプリ(集計表示)」ポートレットの記述例

サイボウズ Officeの「カスタムアプリ(集計表示)」ポートレットには、特定のアプリの集計画面が表示されます。
次の表示用URLを用いてHTMLタグを記述すると、「カスタムアプリ(集計表示)」ポートレットを追加できます。

「カスタムアプリ(集計表示)」ポートレットの表示用URL:

	URL
Windows環境	http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名) /scripts/cbag/ag.exe?page=ForGaroonDBTotalingView

ポートレットの記述例:

```
<table class="top_title">
<tr>
<td nowrap><strong>
<a href="http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)
/scripts/cbag/ag.exe?page=DBTotalingView&did=129" target="_blank">共有タスク管理(集計表示)
</a>
</strong></td>
</tr>
</table>
<table class="list_column">
<tr><td nowrap>
<iframe border="No" frameborder="0" scrolling="Yes" width="100%" height="300"
src="http://(サーバーのIPアドレスまたはホスト名)
/scripts/cbag/ag.exe?page=ForGaroonDBTotalingView&did=129&VID=137&QID=all&TID=29">
</iframe>
</td></tr></table>
```

a)
b)
c)
d)

a):ポートレットに表示するアプリを指定するURLです。お使いの環境に応じたURLを指定します。

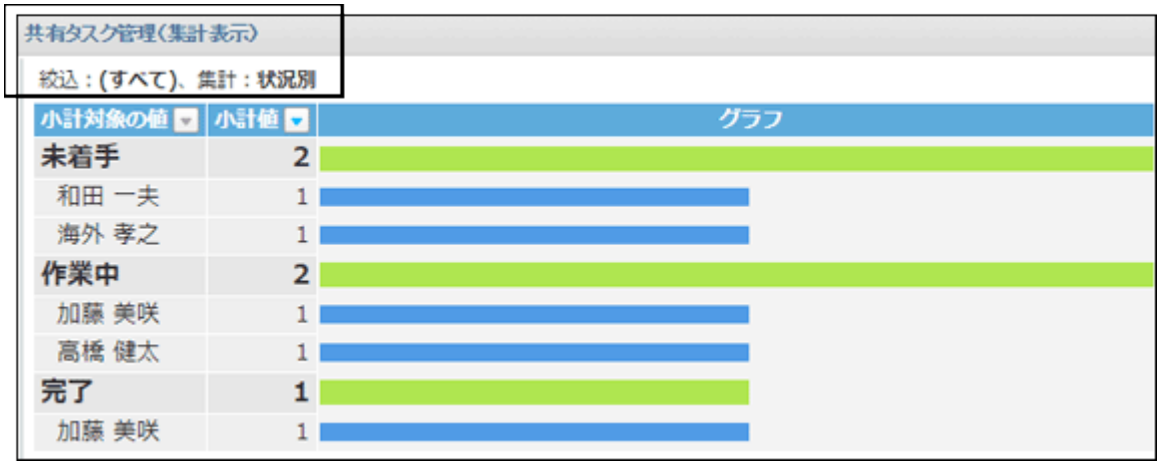
b):ポートレットのタイトルを入力します。

c):ポートレットの高さを指定します。

d):「カスタムアプリ(集計表示)」ポートレットの表示用URLです。必要に応じてパラメーターを指定します。

「14.3.1 使用可能なパラメーター」 - 44ページ

タイトルに「共有タスク管理（集計表示）」を指定した例：



14.3.1　使用可能なパラメーター

カスタムアプリのパラメーターは、URLに表示されます。サイボウズ Officeのカスタムアプリで絞り込みやソートなどを実行すると、結果画面のURLでパラメーターを確認できます。

ポートレットに設定できる主なパラメーターは、次のとおりです。

パラメーター	必須	説明
page	○	「ForGaroonDBTotalingView」を指定します。 ポートレットに集計結果が表示されます。
DID	○	カスタムアプリのIDです。 たとえば次のURLの場合、カスタムアプリのID（did）は「129」です。 http://（サーバーのIPアドレスまたはホスト名） /scripts/cbag/ag.exe?page=DBTotalingView&did=129
TID		集計のIDです。 省略すると、次の順で、使用可能な集計が適用されます。 1.「集計の設定」の「初期値の設定」に設定されている、最初に選択される集計 2.「集計の設定」に登録されている集計の順番
QID		絞り込みのIDです。 次のいずれかの値を指定します。 ・　all：すべてのレコードが表示されます。 ・　数値：「絞り込みの設定」で登録した絞り込みのIDを指定します。 省略すると、次の順で、使用可能な絞り込みが適用されます。 1.「絞り込みの設定」の「最初に選択される絞り込み」 2. 絞り込み一覧の順番

付録A　コマンドラインでユーザー情報を同期する

コマンドラインを使用して、Garoonとサイボウズ Officeのユーザー情報を同期できます。
同期の繰り返し条件は、Windowsのタスクスケジューラ やLinuxのcronを使用して設定します。

注意

- ユーザー情報の同期を実行すると、サイボウズ Officeのユーザー情報がGaroonのデータで上書きされます。
  同期したサイボウズ Officeのユーザー情報は元に戻せません。

補足

- Garoonを複数台のサーバーで運用している場合は、いずれか1台のサーバーでコマンドラインを実行します。

付録A.1　Windowsの場合

Garoonを次のディレクトリーにインストールした場合を例として説明します。
C:¥InetPub¥Scripts¥cbgrn

操作手順:

1. **ユーザー情報の同期に関する注意事項や必要な設定をします。**
   下記の設定が完了している場合は、手順2に進みます。
   - ユーザー情報を同期する前に確認すること
   - オープン統合認証Ver2.の設定
   - サイボウズ Office連携の有効化
   - （必要に応じて）ユーザー情報の自動同期の設定

   詳細は次のページを参照してください。
   「6章 Step4-A:ユーザー情報を同期する場合」 - 13ページ
2. **コマンドプロンプトを起動します。**
3. **カレントディレクトリーを次のディレクトリーに移動します。**

   ```
   C:¥InetPub¥Scripts¥cbgrn
   ```

4. **次のコマンドを実行します。**

   ```
   .¥grn.exe -C -q code¥command¥send_user_to_office.csp url=（サイボウズ OfficeのURL）
   ```

   例:

   ```
   .¥grn.exe -C -q code¥command¥send_user_to_office.csp
   url=http://office.domain.co.jp/scripts/cbag/ag.exe
   ```

補足

- コマンドを実行すると、標準出力の内容が次のログファイルに出力されます。
  C:¥InetPub¥Scripts¥cbgrn¥send_user_to_office.log

付録A.2 Linuxの場合

Garoonを次のディレクトリーにインストールした場合を例として説明します。
/var/www/cgi-bin/cbgrn

操作手順:

1. **ユーザー情報の同期に関する注意事項や必要な設定をします。**

   下記の設定が完了している場合は、手順2に進みます。

   - ユーザー情報を同期する前に確認すること
   - オープン統合認証Ver2.の設定
   - サイボウズ Office連携の有効化
   - (必要に応じて)ユーザー情報の自動同期の設定

   詳細は次のページを参照してください。

   「6章 Step4-A:ユーザー情報を同期する場合」 - 13ページ

2. **コンソールを起動します。**

3. **次のディレクトリーに移動します。**

   ```
   /var/www/cgi-bin/cbgrn
   ```

4. **次のコマンドを実行します。**

   ```
   ./grn.cgi -C -q code/command/send_user_to_office.csp url=(サイボウズ OfficeのURL)
   ```

   例:

   ```
   ./grn.cgi -C -q code/command/send_user_to_office.csp
   url=http://office.domain.co.jp/scripts/cbag/ag.exe
   ```

補足

- コマンドを実行すると、標準出力の内容が次のログファイルに出力されます。
  /var/www/cgi-bin/cbgrn/send_user_to_office.log

付録B　ログ

カスタムアプリ連携に関連するログは2種類あります。

- カスタムアプリ連携の設定に伴うログ
- アプリログ

付録B.1　カスタムアプリ連携の設定に伴うログ

ログは、次の構成で出力されます。

[操作][対象][ログの内容]

操作	ユーザーが行った操作です。 [modify]（変更）、[sync]（同期）などがあります。
対象	監査対象のアプリケーション名やモジュール名などが表示されます。
ログの内容	操作を行ったユーザーや、ログの対象となったデータなどが、「プロパティー：値」の形式で記述されます。値と値の間は、「,」（カンマ）とスペースで区切られています。

補足

- ログに出力される日付や曜日には、Garoonで設定したタイムゾーンが適用されます。

Garoonのシステム管理の設定に関するログ

対象	操作	深刻度	出力仕様
サイボウズ Office連携	設定	重要情報	[modify] officelink_setting (officelink_available:XX, url:XX, sync_user_available:XX, repeat_type:XX, repeat_value:XX, hour:XX, minute:XX)
ユーザー情報の同期	同期	重要情報	[sync] officelink_sync_user (url:XX, cmd:1)

Garoonのシステム管理のログで使用されるプロパティー

プロパティーの種類	意味	メモ
officelink_available	サイボウズ Office連携の使用	次のどちらかの値が表示されます。 ・ true（使用する） ・ false使用しない）
url	サイボウズ OfficeのURL	
sync_user_available	ユーザー情報の自動同期	次のどちらかの値が表示されます。 ・ true（設定する） ・ false設定しない）

プロパティーの種類	意味	メモ
repeat_type	繰り返し条件	次のどちらかの値が表示されます。 ・ 1(毎日) ・ 2(毎週) ・ 3(毎月)
repeat_value	繰り返し条件	**repeat_typeの値が2の場合:** ・ 0(日曜日) ・ 1(月曜日) ・ 2(火曜日) ・ 3(水曜日) ・ 4(木曜日) ・ 5(金曜日) ・ 6(土曜日) **repeat_typeの値が3の場合:** ・ 日付が表示されます。 ・ 月末の場合は「0」が表示されます。
hour	設定時刻(時)	
minute	設定時刻(分)	
cmd	コマンドラインによる同期	次のどちらかの値が表示されます。 ・ 1(コマンドラインを使用している) ・ 表示なし(コマンドラインを使用していない)

ユーザー情報の自動同期を設定した場合に出力されるログファイル

Windows環境	C:¥InetPub¥Scripts¥cbgrn¥sched.log
Linux環境	/var/www/cgi-bin/cbgrn/sched.log

コマンドラインでユーザー情報を同期した場合に出力されるログファイル

Windows環境	C:¥InetPub¥Scripts¥cbgrn¥send_user_to_office.log
Linux環境	/var/www/cgi-bin/cbgrn/send_user_to_office.log

付録B.2 アプリログ

アプリログとは、ユーザーがアプリで行った操作を記録するログです。アプリごとに記録されます。

フォルダのアクセス権やアプリの運用管理者の設定にかかわらず、システム管理者は、すべてのアプリの操作ログを管理できます。

初期状態ではアプリログの出力が無効になっています。

必要に応じて、サイボウズ Officeのシステム設定から、アプリごとに記録する操作ログを設定してください。

詳細は次のマニュアルを参照してください。

『サイボウズ Office 10 マニュアル』: アプリログの管理

https://jp.cybozu.help/ja/of10/admin_app/ap/log.html

補足

- アプリログには、Garoonのタイムゾーンは適用されません。

付録C　エラーメッセージ

カスタムアプリ連携に関連するエラーメッセージは2種類あります。

- Garoonの画面に表示されるエラーメッセージ
- サイボウズ Officeのポートレット内に表示されるエラーメッセージ

付録C.1　Garoonの画面に表示されるエラーメッセージ

Garoonの画面に表示されるエラーメッセージは、次のとおりです。

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対策
GRN_CMMN_00003	アプリケーションを使用できません。	アクセスしようとしたアプリケーションが使用停止中になっているか、現在ログイン中のユーザーが使用を許可されていません。	システム管理者およびアプリケーションの運用管理者にご相談ください。
GRN_DZLK_61005	処理を中断しました。	サイボウズ Office連携を使用しない設定になっています。	システム管理者にご相談ください。
GRN_DZLK_61006	サイボウズ Officeが動作するサーバーとの接続に失敗しました。	サイボウズ Officeが動作するサーバーとの通信時にエラーが発生しました。 通信時のエラーメッセージ：〇〇〇	サイボウズ Officeが動作するサーバーの状態を確認してください。
GRN_DZLK_61007	処理を実行できません。	サイボウズ Officeとの通信時にエラーが発生しました。 HTTPステータスコード：〇〇〇	サイボウズ Officeが正常に動作していることを確認してください。
GRN_DZLK_61008	処理を実行できません。	サイボウズ Office連携に使用する認証方式が削除または変更されている可能性があります。	サイボウズ Office連携に使用する認証方式を確認し、再度設定を行ってください。
GRN_DZLK_61009	処理を実行できません。	サイボウズ Office連携に使用する認証方式が無効になっている可能性があります。	サイボウズ Office連携に使用する認証方式を有効にしてください。
GRN_DZLK_61054	処理を実行できません。 サイボウズ Officeのエラー番号：		

エラー番号	エラーメッセージ	原因	対策
GRN_DZLK_61055	処理を実行できません。	サイボウズ Officeのサーバーとユーザー情報を同期中です。 ユーザー情報の同期処理は、同時に複数実行できません。	実行中の同期処理が終了してから、再度処理を実行してください。

付録C.2 サイボウズ Officeのポートレット内に表示されるエラーメッセージ

サイボウズ Officeのポートレット内に表示されるエラーメッセージは、次のとおりです。

エラーメッセージ	エラーメッセージが表示される箇所		
	最新情報のポートレット	レコード一覧のポートレット	集計表示のポートレット
カスタムアプリを利用しない設定になっています。	×	○	○
設定されていません。		○	○
このカスタムアプリは削除されました。		○	○
親フォルダにアクセス権が設定されています。 このアプリは閲覧できません。		○	○
このアプリのレコードを閲覧する権限はありません。		○	○
利用可能な絞り込みがありません。		○	○
この絞り込みは削除されました。		○	○
絞り込みの設定を確認してください。		○	○
この絞り込みを閲覧する権限はありません。		○	○
利用可能なビュー(一覧)がありません。		○	×
このビュー(一覧)は削除されました。		○	
このビュー(一覧)を閲覧する権限はありません。		○	
このソートは削除されました。		○	
ソートの設定を確認してください。		○	
利用可能な集計がありません。		×	○
この集計は削除されました。			○
集計の設定を確認してください。			○

○: 表示される、 ×: 表示されない

お問い合わせ先　https://garoon.cybozu.co.jp/support/user_package/
発行日　2020年2月21日 第1.4版発行
発行者　サイボウズ株式会社

© Cybozu